

受験番号	
名前	

一 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

私たちは毎日、当たり前のように時間と付き合いながら生活しています。みなさんも、全く時計を見ずに過ごす日はないでしょう。そんな身近な存在である「時間」ですが、実は、「時計の時間」と「心の時間」という、性質のちがう二つの時間があり、私たちはそれらと共に生きているのです。そして、私は、「心の時間」に目を向けることが、時間と付き合っていくうえで、とても重要であると考えています。

みなさんが「時間」と聞いて思いうかべるのは、きっと時計が表す時間のことでしょう。私はこれを、「時計の時間」とよんでいます。「時計の時間」は、もともとは、地球の動きをもとに定められたもので、いつ、どこで、だれが計っても同じように進みます。しかし、「心の時間」はちがいます。「心の時間」とは、私たちが体感している時間のことです。みなさんは、あっというまに時間が過ぎるように感じたり、なかなか時間がたたないと思ったりしたことはありませんか。私たちが感じている時間は、いつでも、どこでも、だれにとっても、同じものとはいえませんが、「心の時間」には、さまざまな事がらのえいきょうを受けて進み方が変わったり、人によって感覚がちがったりする特性があるのです。

分かりやすい例が、「その人がそのときに行っていることをどう感じているかによって、進み方が変わる」というものです。みなさんも、①楽しいことをしているときは時間がたつのが速く、たいくつなときはおそく感じたという経験があるでしょう。このようなことが起こるのは、時間を気にすることに、時間を長く感じさせる効果があるためだと考えられています。例えば、あなたがゲームに夢中になっているときには、集中しているので、時間を気にする回数が減ります。すると、時間はあっというまに過ぎるように感じます。逆に、きらいなことやつまらなく感じる際には、集中しにくくなるので、時間を気にする回数が増えます。その結果、時間がなかなか進まないように感じるのです。

（一川誠「時計の時間と心の時間」より）

問1 「時計の時間」とはどんな時間ですか。文章中から七字で書きぬきなさい。

--	--	--	--	--	--	--

問2 「心の時間」とはどんな時間ですか。文章中から十二字で書きぬきなさい。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

問3 「時計の時間」の説明に合うものを全て選び、記号に○をつけなさい。

- ア 人によって感覚がちがう時間である。
- イ そのときに行っていることによって進み方が違う。
- ウ 地球の動きをもとに定められた。
- エ 私たちが生活の中で付き合っている、ただ一つの時間である。
- オ いつ、どこで、だれが計っても同じように進む。

問4 ①「楽しいことをくおそく感じたという経験」とありますが、そうなるのはなぜですか。次の文章にあてはまる言葉を書きなさい。

時間の進み方の感じ方の差は時間経過に対して向けられる注意であると考えられています。時間の経過に注意が向けられる頻度ひんどが（ ）（ ）ほど時間がより長く感じられるのです。逆に、事がらに集中し、時間の経過に注意が向けられる頻度が低い場合には、時間が（ ）（ ）と感じます。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

【お母さんが急性腹膜炎きゅうせいふくまくえんになって入院してしまい、家じゅうのものが途方にくれた。】

お父さん、中学一年の道子、小学五年の秋男、①だれもまんぞくにごはんのたける人、洗たくのできるものはいなかった。病院にはいったお母さんは、家が心配で、半月で帰ってきた。そして、よごれ物のつまれた家の中で、時どきくる家政婦さんをまっくらした。

そんなある日だった。朝のうちから、ひよひよつくり、おばさんがやってきた。

おばさんは、手にもったふるしきづつみをほどもししないで、あたりを見まわすと

「どうしたの、この家の人は！」と、②どなった。

「お母さんをごみの中にねかしておいていいの？」

それから、おばさんは、はらだちまぎれといったかっこうで、うでをまくりあげると、二人の子どもを追いつかいながら、一時間半というもの、そうじと洗たくにとっくんた。そして、さっぱりした寝まきにきかえたお母さんのわきに座りこむと

「これであなたもせいせいしたでしょ！」

「ありがとう、ねえさん」お母さんは笑っていった。「でもね、私、このごろ、③アカじゃ死なないからって、考えるの」

「あなたの教育方針がまちがってるのよ！」

その時、秋男たちがびっくりしたのは、おばさんのケンマクではなくて、お母さんの返事だった。

「そうなの。④私もこんどこそ、わかった。なかつたら、やりなおすわ。だって、人間いつ死ぬかわからないのに、こんなに何もできない人たちのこしくんじゃ……」

⑤お母さんは、なみだ声になったが、すぐ秋男たちのほうを見て、ちがった声でいった、

「あなたたち、お使いにいつてきて」

道子と秋男が帰ってきた時、おばさんはいなかった。が、そのかわり、ふたりが見たこともない、きれいなものが、茶だんすの上のついていた。それは、光るうす黄色の糸であんだ、あさいカゴで、中にしきつめられた、うす紙のこまかい、こまかいチリチリの上には、うすみどりの大つぶのブドウが、ひとふさ、のついていた。

「わア、おひめさまのカゴ！」道子がかけよって、さわってみた。

お母さんは、⑥うってかわった明るい顔で

「ひさしぶりに胸のすく色を見た……」

ブドウは、二、三日でなくなつた。けれど、お母さんが、あまりそのカゴをおしがるので、お父さんが、そのあとへ、モモを二つのせた。それが、なくなると、道子が、じぶんたちのおやつのマクワウリを一つのせた。

みんなが笑つたが、お母さんは、それさえ、喜んで見ていた。そして、ある時など、おきあがつたついでに、何ものつてないカゴの、チリチリにはなをつけて

「ああ、いいにおいだ。おばさんのおい、お父さんのおい、道子のおい、みんなまじってるよ」

⑦ふしぎなことに、そのカゴが来てから、お母さんの食よくはましてきたし、家の中も、目に見えて、片づきだした。みんながなれてきたのかもしれない。

(石井桃子「においのカゴ」より)

問一 ①「だれもまんぞくにごはんのたける人、洗たくのできるものはいなかった」とはどういうことですか。次の文の空らんにあてはまる言葉を書きなさい。

( ) ができる人がだれもないということ。

※問題はその三に続きます。

受験番号	
名前	

問2 ②「どなった」とありますが、このときのおばさんは何に対してどなったのですか。

( )

問3 ③「アカじゃ死なない」とはどういうことですか。あてはまるものを一つ選び、記号に○をつけなさい。

ア 赤い色の服を着ても死ぬことはないということ。

イ 少し体が汚れていても死ぬことはないということ。

ウ 少し血が出ていても死ぬことはないということ。

エ 赤信号で道を渡っても死ぬことはないということ。

問4 ④「私もこんどこそ、わかった」とありますが、お母さんはどんなことがわかったのですか。文章中の言葉を

使い、答えなさい。

( )

問5 ⑤「お母さんは、なみだ声になった」とありますが、このときのお母さんの気持ちを考えて答えなさい。

( )

問6 ⑥「うってかわった明るい顔」とありますが、なぜお母さんは明るい顔になったのですか。あてはまるものを次から一つ選び、記号に○をつけなさい。

ア 姉が自分の好きなブドウを持ってきてくれたから。

イ 子どもたちがお使いにいつてきてくれたから。

ウ 道子がかゴを見て、純粹に喜んでいる姿に感動したから。

エ 道子の明るい声を聞いて元気が出てきたから。

問7 ⑦「ふしぎなことに、く片づきだした。」とありますが、このことからのどのようなことがわかりますか。あてはまるものと次から一つ選び、記号に○をつけなさい。

ア おばさんの持ってきたかゴには魔法の力があつたこと。

イ かゴのいいにおいがみんなを幸せな気持ちにしたこと。

ウ かゴに何かを入れるのがみんなの楽しみになったこと。

エ かゴを中心にみんなの気持ちや行動が変わつたこと。

三 次のぼう線部の読みをひらがなで書きなさい。

①君には素質がある。 ( ) ②ガラスが破損する。 ( )

③後ろに退く。 ( ) ④湯気があがる。 ( )

⑤地名の由来。 ( ) ⑥筋道が通らない。 ( )

⑦著名な人。 ( ) ⑧水を注ぐ。 ( )

⑨背比べをする。 ( ) ⑩相手を敬う。 ( )

